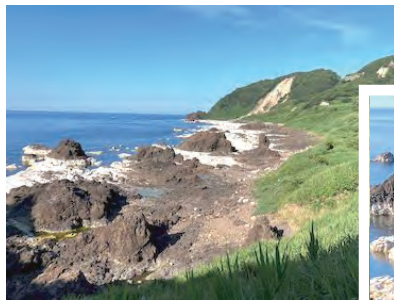


# 珠洲 原発「作らせなくて本当に良かった」



6月29日、藤野やすふみ能登半島地震被災者共同支援センター所長（前衆議院議員・北陸信越ブロック比例予定候補）は、能登半島地震の震源地近くで建設が計画されていた「珠洲原発」予定地だった珠洲市高屋町を視察しました。

今回の地震で住宅の大半が壊れ、陸路も海路も閉ざされて孤立状態となった高屋地区。能登半島地震の震源地にもっとも近く、「もし原発ができていたら、地



4メートルの地盤隆起（白く見える部分）で海面が後退した海岸線



盤隆起で海からの取水機能が失なわれたと考えると、恐ろしいことになっていったと思う」と藤野氏。住民誰もそう感じていません。

建設を阻止したのは、住民らの長年にわたる根強い反対運動でした。1975年に持ち上がった原発建設の計画は、住民の反対運動と、それを切り崩そうとする国と電力会社側との28年にも及ぶ「闘争」の末、2003年12月に計画は凍結



海岸線のいたる所で、土砂・岩石が崩れ応急のう回路が作られており、本格的な復旧工事はいつになるのか？

## 被災地の道路はまだまだ仮設工事のまま！

となりました。

当時、原発に賛成した住民たちも「原発つくらなくて本当に良かった」と話します。

**被災地の仮設を訪問し 支援物資お届けと、要望の聞き取り**

能登半島地震から半年、いまだに復興の見通しが明らかにならない中、「被災者共同支援センター」は、被災者に寄り添う「合言葉に、被災地・奥能登の仮設住宅を訪問して、全国からの支援物資をお届けし、仮設入居の被災者から、いろいろな要求をお聞きする活動を中心に行っています。

**自宅裏山が土砂崩れ、母屋含め4件倒壊**

7月2日、能登の旧小本小学校グラウンドの仮設訪問でお会いし、話をお聞きした方の自宅裏山の土砂崩れ現場を視察させていただきました。

県道57号の能登町天坂の土砂災害現場、「母屋も含め4軒あった建物が押しつぶされ、農機具やコメも壊れた家屋の下で取り出せない。町からは使える制度の知らせもない」と話していただきました。

